

# 来て、見て、感動! 米子城

米子城跡を活かしたまちづくりシンポジウム

## 資 料



平成30年11月11日(日)

13:00~16:00

米子市公会堂

主催/米子市、一般財団法人自治総合センター 後援/総務省、米子市教育委員会、一般財団法人米子市文化財団

問合せ 米子市文化振興課 TEL 0859-23-5438 FAX 0859-23-5414

※このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです

# 日程

13:00-13:10 オープニング

13:10-13:15 主催者あいさつ 米子市長 伊木隆司

----- [第1部] -----

13:15-14:00 基調講演「米子城ってどんな城？～その歴史と魅力を語る～」  
中井 均氏

14:00-14:45 スペシャリストたちによるお城トーク  
春風亭昇太氏、中井 均氏、萩原さちこ氏

14:45-15:00 休憩

まつえ若武者隊による演武

----- [第2部] -----

15:00-16:00 パネルディスカッション「これからの米子城 ～城跡でまちを元気に～」

パネリスト：春風亭昇太氏、中井 均氏、萩原さちこ氏、濱野浩美氏（米子市文化振興課）

コーディネーター：中原 斉氏（鳥取県教育委員会文化財課長）



## ゲストプロフィール



城郭研究家  
**中井 均**

考古学者・城郭研究家・滋賀県立大学人間文化学部教授。滋賀県文化財保護協会を経て米原町・米原市教育委員会に25年間勤め、発掘調査などに携わる。専門は日本考古学で、特に中・近世城郭の研究、近世大名墓の研究。日本各地の中・近世城郭の発掘調査・整備の委員を務める。著書『近江の城 -城が語る湖国の戦国史-』『中世城館の考古学』などがある。

落語家・城郭愛好家  
**春風亭昇太**

落語家。芸能界きってのお城マニアで、全国各地で行われる城イベントに引っ張りだこ。2016年5月から人気長寿番組「笑点」の司会を務める。中学生のときに会った庵原山城（静岡市）で本格的に城に目覚め、休みのたびに友人と地元の山城を巡り歩いた。城に関係する著書に『城あるきのススメ』がある。

城郭ライター  
**萩原さちこ**

城郭ライター・編集者。小学2年生で城に魅せられて以来、日本人の知恵、文化、伝統、美意識、歴史のすべてが詰まった日本の宝の虜になり、城めぐりがライフワークに。印刷会社、出版社、制作会社、広告代理店等の勤務を経て2012年独立。著書に『わくわく城めぐり』『お城へ行こう！』『図説・戦う城の科学』などがある。日本城郭協会理事。

基調講演

## 米子城ってどんな城？ ～その歴史と魅力を語る～

滋賀県立大学 中井 均

### ◆はじめに

- ・ 続日本 100 名城とは ⇒ 2017 年 4 月 6 日に公益財団法人日本城郭協会により選定【優れた文化財・史跡、著名な歴史の舞台、時代・地域の代表】
- ・ 祝！「米子城」が続日本 100 名城に選定 ⇒ 「吉川氏の天守と中村氏の天守 2 基を持った壮大な石造りの山城」【鳥取県からは若桜鬼ヶ城と 2 城が選定】
- ※日本 100 名城 ⇒ 鳥取県では鳥取城が選定

### ◆吉川広家による米子築城

- ・ 天正 19 年(1591)の吉川広家による米子築城 ⇒ 豊臣秀吉より本領の安芸国山県郡・安南郡・佐西郡に加え、出雲国意宇郡・能義郡、伯耆国会見郡・汗入郡・日野郡、備中国哲多郡を賜る【毛利本家の有力家臣であるとともに豊臣大名として秀吉に直属する大名となる】
- ・ 月山富田城から米子城へ ⇒ 「富田城も山奥にて寒気など強く、第一は不自由に付き、城地御替えなされたしと思召し候て」（『好問随筆』）  
はたして事実か？
- ・ 米子の位置 ⇒ 伯耆国の西端で出雲との国境に近い【山陰道の出雲、備中、因幡への分岐点】  
広家の新たな領国のなかでは中心的位置  
さらに中海に面した港湾 ⇒ 水陸交通の要衝
- ・ 毛利氏の両城体制 ⇒ 毛利本家【吉田郡山城(内陸部の城)と広島城(海に面した城)】、小早川氏【新高山城(内陸部の城)と三原城(海に面した城)】、吉川氏【月山富田城(内陸部の城)と米子城(海に面した城)】  
※長宗我部氏【岡豊城(内陸部の城)と浦戸城(海に面した城)】や小西行長【宇土城(内陸部の城)と麦島城(海に面した城)】  
豊臣秀吉の朝鮮出兵のための海への進出

### ◆2つの天守台 -続日本 100 名城の選定理由-

- ・ 四重櫓が吉川広家による天守、大天守が中村一忠による新たな天守 ⇒ 従来の説【なぜ 2 つが必要なのかの説明にはなっていない】
- ・ 四重櫓の位置 ⇒ 本丸の隅に偏りすぎている【初期に天守を配する場所ではない】

- ・大天守の位置 ⇒ 本丸の中央【城下からのヴィスタからも最初からここに配置する】
- ・大天守は吉川広家によって築かれた可能性 ⇒ 石垣の構造【隅角部のみ矢穴技法によって割られた石材が用いられ、築石には粗割石しか用いられていない】
  - ※大和郡山城天守台(文禄頃か)、近江八幡山城(文禄頃か)に類似
  - 四重櫓は最初からこの大天守の小天守として築かれたものではないか
  - あるいは大天守は天守台のみ完成し、作事は慶長5年(1600)に入封した中村一忠によって造営されたものか

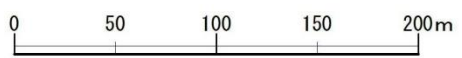
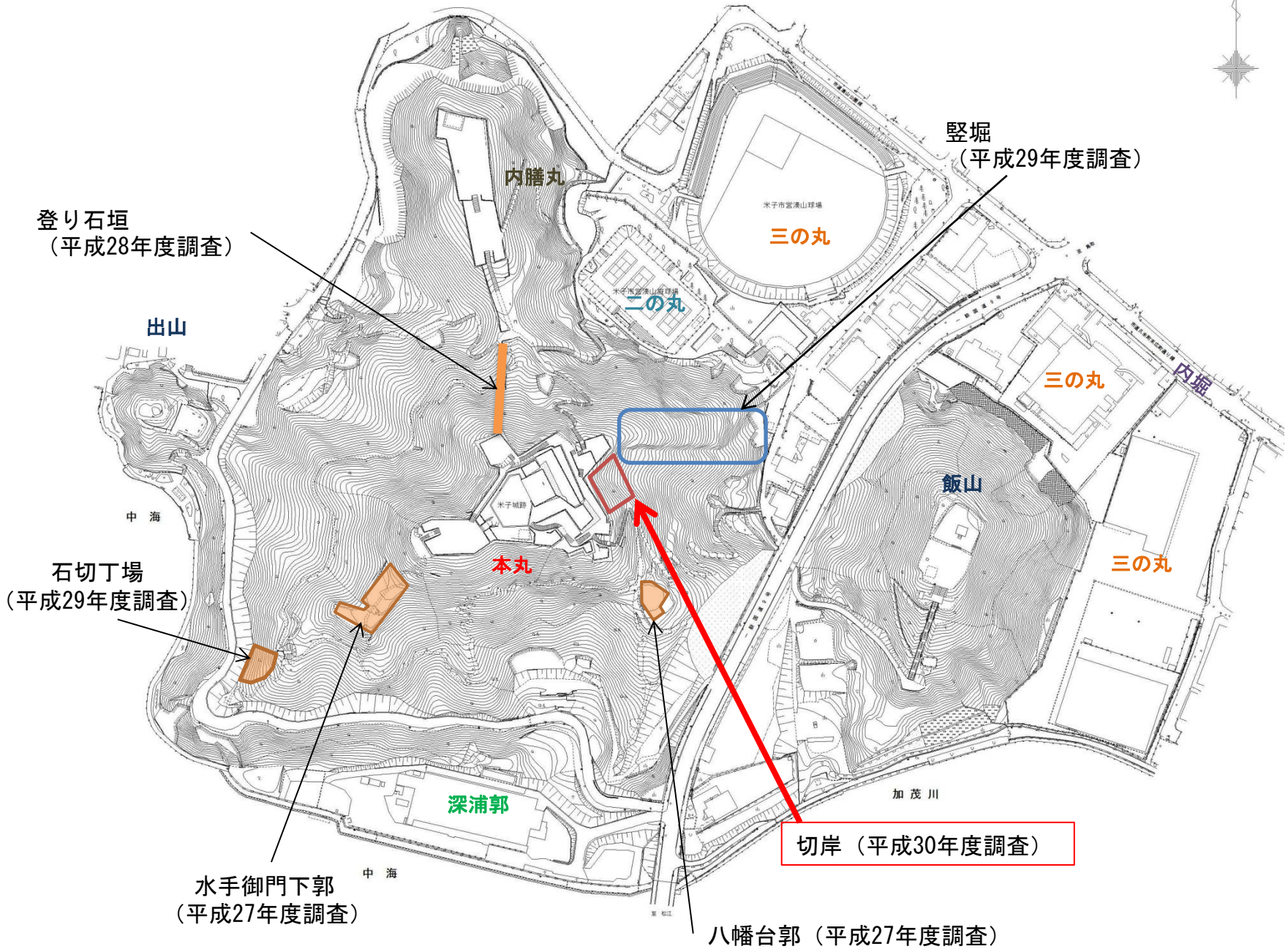
#### ◆近年の調査成果

- ・本丸遠見御櫓下から内膳丸に伸びる登り石垣 ⇒ 中海側からの遮断線
  - 登り石垣とは ⇒ 豊臣軍によって朝鮮半島に築かれた倭城の特徴【山城と山麓の港湾を一体化する防御施設】
  - 文禄慶長役後に日本列島で築かれた城にも導入される ⇒ 但馬竹田城(滴水瓦)【赤松広秀(参戦渡海)】、伊予松山城(滴水瓦)【加藤嘉明(参戦渡海)】、淡路洲本城【脇坂安治(参戦渡海)】、彦根城【井伊直政】、米子城(滴水瓦：月山富田城)【吉川広家(参戦渡海)】
- ・登り石垣 ⇒ 石垣上には土塀が建てられていた【絵図には描かれている】
  - ※彦根城では「瓦塀」と記されている
- ・山切岸 ⇒ 本丸鉄門から二の丸の南側に伸びる崖面【登り石垣と対になる防御施設】
  - 深浦側からの遮断線

#### ◆おわりに

- ・城跡 ⇒ 建物は何もなく、石垣しか残されていない
  - 城郭の本質的価値とはなにか ⇒ 普請(土木施設)としての石垣、土塁、曲輪、切岸などが城の生命線【建物がなくても城郭として充分機能する】
  - 近代以降、天守=城といった認識が生まれる
- ・米子城の魅力 ⇒ 城の本質的価値としての石垣がほぼ完存している【本物が残されている】
- ・三の丸の史跡追加指定 ⇒ 今後の設備に大いに期待したい





## 米子城関連年表

年	内 容
応仁 1 年 (1467) ～	応仁の乱の頃、米子飯山に山名宗之が砦を築く。
大永 4 年 (1524)	5 月 尼子経久伯耆に侵入 米子城、淀江、尾高などの城を攻め落とす。
永禄 5 年 (1562)	毛利元就の富田城攻め、因幡、伯耆へも進出。
永禄 9 年 (1566)	富田城陥落。山陰地域は毛利支配下に入る。
天正 6 年 (1578)	尼子勝久上月城で自刃 尼子氏滅ぶ。 この頃の米子城番は古曳吉種。
天正 9 年 (1581)	鳥取城落城、秀吉が伯耆一円を支配。
天正 13 年 (1585)	秀吉と毛利輝元の和睦 八橋以西の伯耆三郡が毛利領となる。
天正 15 年 (1587)	吉川広家 (吉川元春の三男)、吉川家の家督を継承。
天正 19 年 (1591)	吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など 12 万石を認知され、富田城に入り、山県九左衛門を奉行として米子湊山に築城開始。
文禄 1～慶長 3 年 (1592～1598)	文禄・慶長の役 (朝鮮出兵) 吉川広家従軍 古曳吉種は朝鮮で討ち死 (1592)。 慶長 3 年 8 月、秀吉死す。 吉川広家、富田城に帰り湊山築城を監督、米子湊、深浦湊整備。
慶長 5 年 (1600)	関ヶ原合戦 吉川広家、西軍として出陣 吉川広家、周防国岩国 (3 万石) に転封、この頃米子城は 7 割方完成。 駿河国府中城主、中村一忠 (18 万石) が伯耆国領主となり尾高城に入る。
慶長 7 年 (1602)	中村一忠、尾高城から完成した米子城に移る。
慶長 8 年 (1603)	中村一忠、家老の横田内膳を暗殺 (米子城騒動)。
慶長 14 年 (1609)	中村一忠 20 歳にて死去、中村家は断絶。
慶長 15 年 (1610)	岐阜美濃国黒野城主加藤貞泰、伯耆国会見・汗入郡 6 万石領主となり入国する。
元和 1 年 (1615)	大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ。幕府は一国一城令を發布するも、米子城は保存と決まる。
元和 3 年 (1617)	加藤貞泰、伊予国大洲に転封、因伯領主となった池田光政の一族、池田由之が米子城預かり (3 万 2 千石) となる。
元和 4 年 (1618)	池田由之の死去、子由成が米子城主となる。
寛永 9 年 (1632)	池田光仲、因伯支配 (32 万石)、家老荒尾成利が米子城預かりとなる。
嘉永 5 年 (1852)	四重櫓と石垣を鹿島家の負担により大修理。
慶応 4 年 (1868)	明治維新。
明治 2 年 (1869)	朝廷より米子城返上の命令あり。
明治 5 年 (1872)	米子城山は士族小倉直人らに払い下げとなる。
明治 6 年 (1873)	城内の建物類は売却され、数年後取り壊される。



## かるちゃんのちよこっとお城紹介

名称	所在地	構造	築城、改修者	主な城主	備考
あわじすもとじょう 淡路洲本城	兵庫県 洲本市	平山城 平城	室町時代時代後期安宅治興、 天正 10 (1582) 年仙石秀久、天 正 13 (1585) 年脇坂安治	脇坂氏	続日本 100 名城
いよまつやまじょう 伊予松山城	愛媛県 松山市	平山城	慶長 7 (1602) 年加藤嘉明、寛 永 4 (1627) 年蒲生良知	加藤氏、蒲生氏、 松平 (久松) 氏	日本 100 名城
いまばりじょう 今治城	愛媛県 今治市	平城 (海城)	慶長 7 (1602) 年藤堂高虎	藤堂氏、 松平 (久松) 氏	日本 100 名城
うとじょう 宇土城	熊本県 宇土市	平山城	天正 16 (1588) 年小西行長 慶長 5 (1600) 年加藤清正	小西氏、加藤氏	
うらとじょう 浦戸城	高知県 高知市	平山城	天文年間 (1532~1554)、本山 茂宗 (清茂) 天正 19 (1591) 年 長宗我部元親	本山氏、長宗我 部氏、山内氏	
えとじょう 江戸城	東京都 千代田 区	平山城	長祿 1 (1457) 年太田道灌、慶 長 11 (1606) 年徳川家康	太田氏、後北条 氏、徳川氏	日本 100 名城
おこうじょう 岡豊城	高知県 南国市	山城	15 世紀頃、長宗我部氏	長曾我部氏	続日本 100 名城
がっさんと だしょう 月山富田城	島根県 安来市	山城	歴代出雲守護職居城、戦国時代尼 子氏居城、天正 19 (1591) 年吉 川広家、慶長 5 (1600) 堀尾吉 晴、忠氏	尼子氏、毛利氏 吉川氏、堀尾氏	日本 100 名城
とっとりじょう 鳥取城	鳥取県 鳥取市	山城 平山城	16 世紀中頃山名誠通、天正 1 (1573) 年山名豊国、天正 9 (1581) 年宮部継潤、慶長 5 (1600) 年池田長吉	山名氏、吉川氏、 宮部氏、池田氏、 鳥取池田氏	日本 100 名城
たじまたけだしょう 但馬竹田城	兵庫県 朝来市	山城	永享 3 (1431) 年山名持豊、天 正 6 (1578) 羽柴秀長、文祿 1 (1592) 年赤松広秀	大田垣氏、桑山 氏、赤松氏	日本 100 名城
ひこねじょう 彦根城	滋賀県 彦根市	平山城	慶長 9 (1604) 年井伊直継・直 孝	井伊氏	日本 100 名城
むぎしまじょう 麦島城	熊本県 八代市	平城	天正 16 (1588) 年頃小西行長、 慶長 17 (1612) 年加藤正方	小西氏、加藤氏	
やまとこおりやま 大和郡山 じょう 城	奈良県 大和郡 山市	平山城	天正 8 (1580) 年筒井順慶、天 正 13 (1585) 豊臣秀長	筒井氏、豊臣氏、 増田氏	続日本 100 名城
よしだこおりやまじょう 吉田郡山城	広島県 安芸高 田市	山城	建武 3 (1336) 年毛利時親 天文 20 (1551) 年毛利元就、天 正年間 (1573~91) 毛利輝元	毛利氏	日本 100 名城



## かるちゃんのちょこっとお城の用語解説



**海城**（うみじろ）：城の周囲が海・湖などに面している水域の中で、特に海に面しているもの。

**大手門**（おおてもん）：城の表口に建つ門。通常は二の丸や三の丸の正門。

**搦手門**（からめてもん）：城の裏口に建つ門。

**郭**（くるわ）（曲輪）：城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域の名称。本丸、二の丸、三の丸など主要な廓内には、城主の居所のほか、兵糧を備蓄する蔵、兵たちの詰所などのほか、郭の出入り口である虎口を閉める門や、堀、物見や攻撃を与える櫓（やぐら）が建てられた。

**鉄門**（くろがねもん）：門扉や柱に細長い鉄板をすき間なく貼った門。少し間隔をあけて、筋状に鉄板を貼った鉄筋門もあり、これを鉄門と称した城もある。

**虎口**（こぐち）：城の出入り口、小さな入口に作り敵の侵入を防いだことから、はじめは「小口」と書いたが、後に「虎口」と書かれるようになった。

**御殿**（ごてん）：政庁の場所でもあり、城主とその家族の住まいでもある建物。公的な空間である「表御殿」と、私的な空間である「奥御殿」がある。

**侍町**（さむらいまち）：城下町において、城主の家臣（侍）の住居から構成されたまち、侍屋敷地とも言う。

**総構**（そうかまえ）（総曲輪）：城下町を長大な堀や土塁・石垣で取り囲み、大規模な郭としたもの。近世期には政治の拠点である本丸、二の丸、三の丸など城の主要な部分（内郭）から、さらにもう一重外側に防御線を設けられるようになった。これが総構である。総構の堀は総堀（惣堀）と言うが、外堀と言われることが多い。

**本丸、二の丸、三の丸**（ほんまる、にのまる、さんのまる）

近世では城の中心となる郭は本丸と呼ばれ、本丸に天守が設けられることが多かった。二の丸、三の丸といった呼称は、本丸からの位置関係によるもの。

**竪堀**（たてぼり）

敵の横方向の移動を防ぐため山の斜面と平行に縦（竪）に掘られた空堀のこと。

**町人地**（ちょうにんち）

城下町において、商工業者（町人）たちの住居・店からなる町。町屋敷地とも言う。

**寺町**（てらまち）

城下町において、寺院を集中的に配置した地域。防御の役目も果たす。

**天守**（てんしゅ）

城の中心に建てられた高層の櫓。「天守閣」は俗称。

**出丸**（でまる）

城の守備が脆弱な箇所の補強や物見などの目的で作られた補佐的用途を持つ曲輪。

**土塁**（どるい）、**石垣**（いしがき）

敵の攻撃、侵入を防ぐために、城の外周や郭の周囲に土を持って固めた施設のこと。

近世城郭では土塁に代わり、土塁壁面に石を積み上げた石垣が主流となる。

**縄張**（なわばり）

城の曲輪や堀、門、虎口等の配置をいう。城郭での戦いの勝敗を決める要素の一つに、城郭の形状・構造が挙げられる。そのため築城に際してなるべく防御側に有利になるよう、城郭の立地なども考慮して縄張が決められ曲輪が配置された。縄張の基本は城郭の核となる本丸の周囲に、二の丸、三の丸を効果的に配置することにある。



伯耆国米子城絵図

（文久3〔1863〕年9月）



## 桁形（ますがた）

四角形の小さな広場のこと。

## 桁形虎口（ますがたこぐち）

桁形と2つの城門を組み合わせた二重構造の出入り口のこと。敵の直進を防ぐために直角に折れ曲がっている。敷地から飛び出すように築かれたものを**外桁形**、敷地内に取り込まれたものを**内桁形**という。

## 町割（まちわり）

城下町において城下全体を軍事的、政治的、経済的中心とするために城を中心として、侍町、町人地、寺町を計画的に配置した構造のこと。

## 堀（ほり）

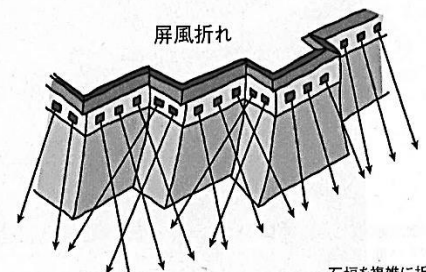
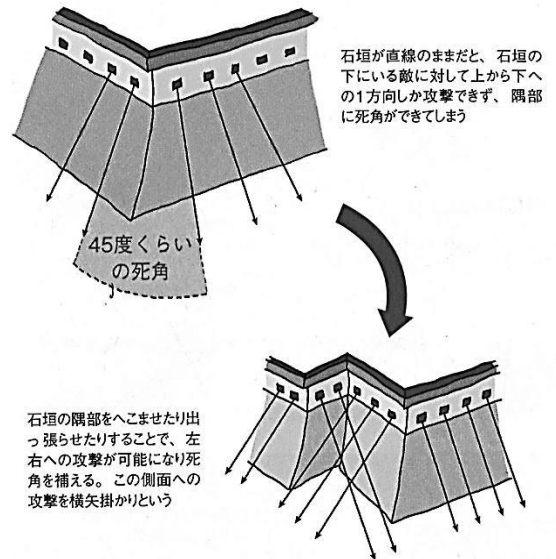
敵の進撃をはばむための人工的な大溝で、水のない堀を「空堀」、水のあるものを「水堀」と呼ぶ。

## 櫓（やぐら）

主に郭の隅などに築かれた建物で、監視や攻撃の拠点としての役目を持つ。近世城郭では単層の平櫓、二重以上の櫓、長屋のような多門（多間）櫓など多様化し、天守の代用となる櫓もあった。

## 横矢（よこや）

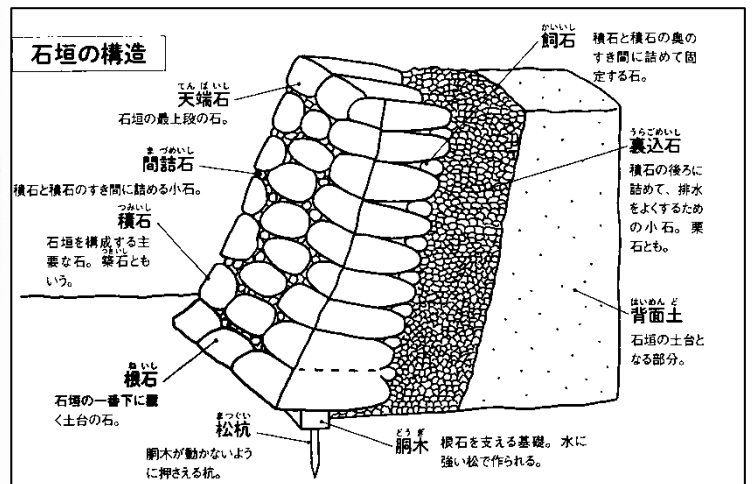
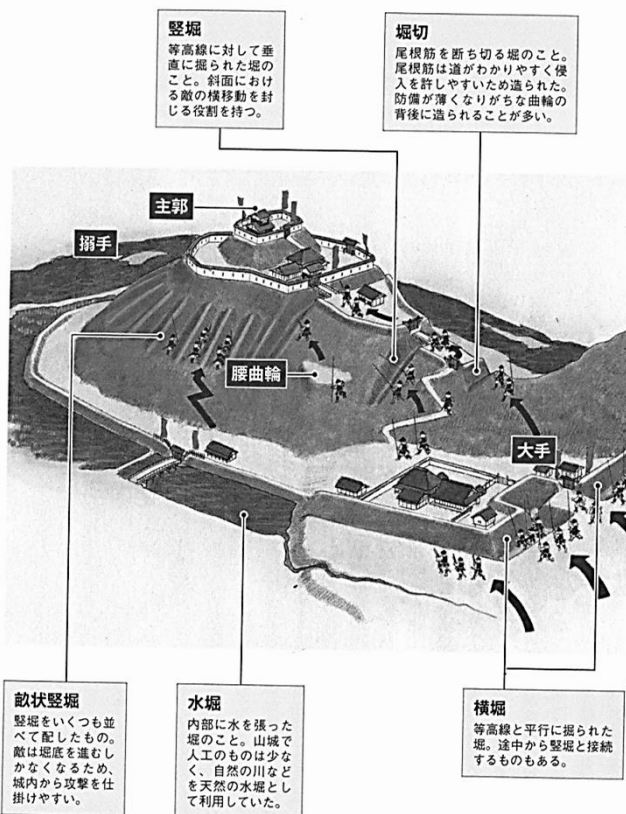
正面と側面など二方向からの攻撃のこと。横矢を構えることを横矢掛（よこやがかり）と呼び、石垣を直線的ではなく途中で折れ曲げ、横矢がかけられるようにすることが城の防御の最大の基本とされた。



石垣を複雑に折り曲げることで城壁全体にくまなく横矢が掛かり、防御力が上がる

萩原さちこ 2015「図説・戦う城の科学」

SBクリエイティブ株式会社より転載



加藤理文著小和田哲男監修 2017『よくわかる日本の城 日本城郭献呈公式参考書』より転載